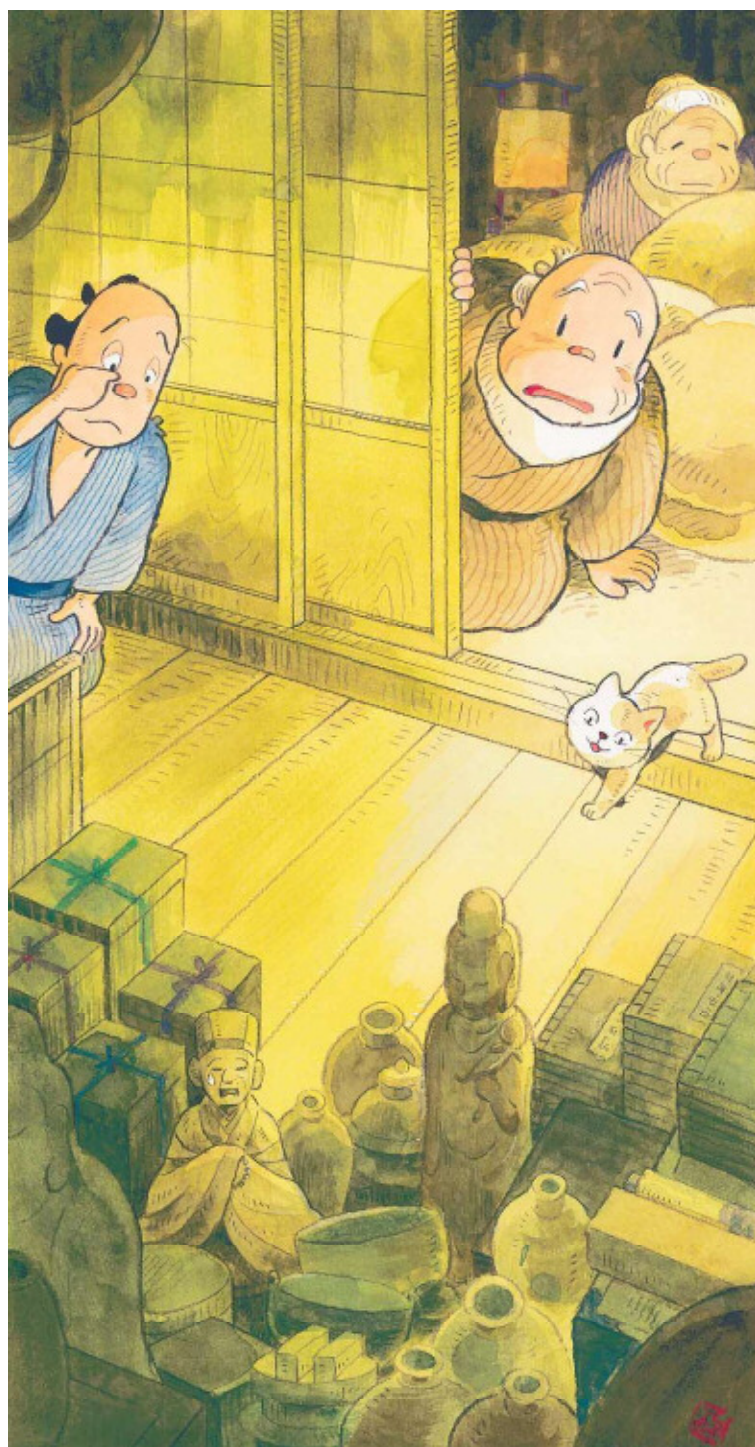


「広報しながわ」平成20（2008）年3月1日号より転載
（イラスト：池原昭治）



むかし 東大井
品川昔ばなし

泊船寺の夜泣き芭蕉像



江戸時代、松尾芭蕉は泊船寺（東大井4丁目）の住職と親交が深く、境内にある牛耕庵をととも気に入っていたそうです。元禄七年（1694）、芭蕉が亡くなるのと同じころ、牛耕庵の古池の横にあった、芭蕉が好んだ柳の古木が枯れてしまいました。約百年後、俳人石河積翠がその柳の古木で芭蕉坐像を彫り、寺に安置したと伝えられています。

ある夜、寺から芭蕉坐像が盗まれてしまいました。みんなで手をつくしてさがしましたが見つかりません。

盗まれた像は、古道具屋に売られていましたが、古道具屋の主人はその像が、泊船寺から盗まれた芭蕉像とは知りませんでした。

その日の真夜中、「おい！おい！」と、どこからか人を呼ぶような声に、店の主人は目をさました。まわりには人はだれもいません。「気のせいかな」と思って眠ろうとしましたが、しばらくすると、また、声が聞こえます。表の戸を開けてみると、だれもいません。おかしいなと思いながら、布団にもぐりこむと、やはり声がするのです。主人が声のする方へたどって行くと、どうやらその日に買った像から聞こえてくるようです。おそるおそる像に近づいてみると、像は目に涙をうかべて、「わしは、早く寺に帰りたい」と、かすかな声で言っています。次の日も、また次の日も、同じように泣くので、主人が調べてみると、泊船寺から盗まれた芭蕉像だとわかりました。かわいそうに思った主人は、ある夜、芭蕉像を白い布に包んで、泊船寺の門のところにそっと返しておきました。

翌朝、寺の小僧さんが、門前で白い布に包まれた芭蕉像を見つけて、元の場所に戻しました。これを聞いた村人たちは寺に集まり、「芭蕉様に戻ってきたぞ」とみんなで喜びました。

【泊船寺】

室町時代の永徳二年に開かれたといわれ、境内には芭蕉の句碑をはじめ、芭蕉ゆかりの多くの句碑があります。